

工学部だより

2022.7

No.27



ケヤキ並木を整備しました

目次

山形大学工学部 前学部長・現学部長対談 …	2	令和3年度卒業・修了予定者の就職状況 ……	14
ごあいさつ ……………	6	山形大学工学部後援会会則 ……………	15
学務委員会だより ……………	7	令和3年度一般会計収支決算書及び	
教務委員会だより ……………	7	令和4年度一般会計収支予算書 ……………	15
山形の未来を切り開け！		山形大学工学部保護者懇談会	
国際交流活動および留学プログラムについて	8	今年度(2021年度)実施報告と	
……………		来年度(2022年度)開催予定 ……………	16
学科(専攻)だより ……………	9	お知らせ ……………	16
キャリアサポート室だより		令和4年度工学部年間予定表・後援会通信	
就職活動と後輩へのアドバイス ……………	12	……………	16
令和3年度卒業・修了予定者の就職内定・			
進学予定先一覧 ……………	13		

進む教育改革。

さらなる学びと研究を

山形大学工学部 前学部長・現学部長対談

時代の変化と向き合いながら、山形大学工学部は今、進化の時を迎えています。昨年度まで学部長としてご尽力された中島健介先生と、今年度より学部長に就任された黒田充紀先生に、これからについて対談いただきました。



前工学部長
中島 健介

長岡技術科学大学工学部助手、東北大学電気通信研究所助手、同研究所助教授、弘前大学理工学部教授を経て、2007年より山形大学大学院理工学研究科教授。2020年より山形大学工学部長・米沢キャンパス長。専門は超伝導電子デバイス、電子材料。



工学部長
黒田 充紀

1992年 武蔵工業大学 大学院博士後期課程修了。足利工業大学 講師、助教授を経て1999年山形大学大学院理工学研究科助教授、2006年より同教授。2022年4月より工学部長・米沢キャンパス長。大学院在学時から1995年頃までは大型公共構造物(特に鋼製橋梁)に関する研究・開発に従事。それ以降は弾塑性力学、連続体力学、塑性加工、金属材料を重点的に研究。

◆次なる時代に託されたバトン

中島 私がこれまで工学部長を務め、大事にしてきたことはたくさんあるんですけども、中でもコンプライアンスを重要に考えていました。また、業務執行体制の中で、説明責任をきちんと果たせるように組織や規則の見直しと整備を進めてきたつもりです。

心残りだったのは、学生ともっと話ができる学部長でいたかったなというところですね。新型コロナウイルスの感染拡大があってそういうことがなかなかできない、学生へのメッセージはいつも「生活をこうしなさい」というような話を中心になってしまいました。つたない経験かもしれないけれども、どうやって自分を見つめ、将来を切り拓いて行くのかというように学生に直接語りかける機会が欲しかったのですが、それができなかったのは本当に残念に思います。

そういう意味では、ケヤキ並木の伐採を直前で思いとどまり将来に向けて保全することをしたのも、人と人とのつながりに支障を来す今だからこそ、学生の記憶に残るであろうキャンパスの景観は残しておきたいという思いからでした。

退任後は2年ほど客員教授という形で今まで行ってきた研究をまとめさせていただく予定です。大学最後の4、5年間は執行部ということで研究室にいる時間が少なかった。今まで学生が残してくれた立派な成果をきちっと世に残していくことを最後の務めにしたいと思っています。黒田先生もこれからはお忙しくなるでしょうから、仕事改革もしっかり進めてもらい、研究室の学生を大事にしてやってください。

黒田 そうですね。私の最も大きな目標として、効率よく仕事を進められるシステムをつくるということ掲げています。コロナ渦によって様々な問題が起こり、それを乗り越えてきましたが、それ以前から大学の教員の忙しさは問題になっていました。今後は、事務部により一層運営面のリーダーシップを担ってもらい、教員は教員の役割を果たすという原点に戻って。それによって教員が学生と触れ合う時間を増やして、本来の密度の濃い「人の育成」ができるような体制を目指していきたい

と思っています。

もう一つは、学生の様子を今一度見つめるということ。いろんな世の中の変化があり、様々な多様化が進みました。うまくいっている学生は良いのですが、中には少しサポートが必要という学生も。そこには我々もエネルギーをきちっと投入し、脱落する学生がいないよう導いていきたいと思っています。今までもきちんとしてきたつもりですが、さらにレベルを上げていきます。

それから、1年生が入学し、2年生、3年生になって、卒業研究をして大学院に進学し、そこでようやく先生と学生が一緒になって研究し、そして成果を出す。それこそが一番大学らしい姿ですよ。そこまでのプロセスを見つめなおし再構築していき、研究力のUP、魅力的な研究を発信できる大学により一層していきたいと考えています。

◆学生生活を充実させる、サークル活動、課外活動

中島 今年は雪が多く埋もれてしまいましたが、建築デザイン学科が、食堂と体育館の間の空間に地域伝統の雪囲いを作ってくれました。建築デザイン学科が米沢キャンパスに来て、雪囲いという雪国の地域文化を掘り起こしながら、新しい研究につながる予兆を感じてうれしく思いました。今後も続けてもらいたいですね。実は学生が通う食堂に続く通路をつくりたいとずっと言っていたのですが、なかなか実現しませんでした。今度は冬だけ雪囲いの通路をつくるなどできたらいいですよ





ね。雪国ならではの、雪を楽しめるような感覚は、文化的にもこの地域の大きな財産になると思っています。学生にも、米沢ならではの学生生活を楽しんでほしいですね。

黒田 除雪ボランティアなども実施してきましたね。楽しかった、やりがいがあったと感想が聞こえてきます。ご高齢の方にとっては苦しいことも、学生にとってはエクササイズになっている場合もあり、うまくマッチングしていけたらいいですね。

ひとつ心配しているのが「吾妻祭」です。これまで米沢女子短期大学、米沢栄養大学と合同で実施してきましたが、コロナ渦の直前にも台風の影響で開催できなくなり今年で3年目です。実行委員会が現在どうなっているのかということも心配ですね。他の大学の事務の方と協力し、実現できるよう準備を進めていきたいと思っています。

中島 合同で行っていた米沢短期大学の学生は2年で卒業され、代替わりされていますから、経験のある学生はおそらくいません。そういう意味でより一層工学部の学生が覚悟をもって実施してほしいです。もう一回内容を再構築するいい機会にもなるかもしれませんね。オンラインを含め、楽しい企画を考えてもらえたらと思います。

黒田 各種サークルもしっかり活動ができるようにサポートします。まだコロナ渦は終わったわけではありませんが、対策をしっかりとって、十分に活動できるような大学としての支援が必要です。やはりサークルで活動することによって、横の繋がりや先輩後輩の関係が広がって、勉強の指導から進路について相談しあえたりする。コロナ渦に

よって友達がいなくて孤立してしまう学生がいるのではという心配もありますので、そのあたりも支援していきたいです。

◆コロナ渦によって進化した教育 ～オンライン授業から得られた安心感～

黒田 コロナ渦により教育はこの2年間で大きく変化しました。実はその前から山形大学はオンライン学習システムを持っていたんですけども、利用する機会が多くなかったこともあり、はじめは戸惑いもありました。しかしその学習システムを活かして早い段階からオンライン授業が実施でき、他大学の状況も参考にさせていただきながら、充実を図ってきました。オンラインシステムを活用すれば、授業を休んだ人でも後から動画で見られたり、資料を確認することもできる。どこにいたって授業に参加することもできます。こういったスムーズな授業形態の確立は副産物とも言えます。この2年間の教育改革は、良い方向に行ったのではないかと思います。体調を崩し休むことがあっても、誰も取り残さない。また授業に出ない学生の確認もしやすいので、支援も素早くできます。そんなシステムを今後も推進させていきます。

中島 私は、着任後間もなくからこれまでの長い間、何とかしたいと思いながら、成せなかったことがあります。それは1年生での小白川の教育の中に工学部の香りがなかなか届かないことです。入学したての頃は、新しい環境に戸惑いながらも、自



ら選択した専門分野に対する好奇心が徐々に醸成されてくるのが伝わってくるのですが、米沢に進んできた学生をみるとあの活気はどこにいったのかなという感覚を覚えていました。不安の中でも工学を学ぶことへの意欲を、もう少し2年次3年次にうまく繋げて行かなければならないと思います。それには工学部の教員と初年次学生との関わり合いをもっと増やしていく必要があるのですが、これまではどうしても分散キャンパスが壁になってきました。

苦労はありましたが、オンライン授業も何とか軌道に乗ってきたように思います。今後は、これを積極的に活用することで分散キャンパス故の問題の解決にも取り組んでいっていただきたいと思っています。

黒田 オンラインでは、学生からの質問の仕方がいろいろあります。チャット内に教員あてに記入してもらって質問と回答を全員に伝える方法。それから授業が終わった後、質問がある人はオンラインを切らず残ってもらい、疑問がなくなるまで答える方法。あとはシステム上でメッセージを送って聞く方法。総合的に考えるとこれまで以上に質問の数が増え、教員にとっても十分に伝わっていない部分を確認でき、次の授業で補足することもできる。今後は対面の良さを復活させつつ、オンラインのメリットと合体させながら、新しい教育スタイルを確立していきたいです。

◆学生、保護者、そしてOBへ伝えたい ～大学からのメッセージ～

中島 よく「学生が主体」ということを聞かれると思いますが、実際は主体とは何なの分かりづらいのではないのでしょうか。私は、自らの将来を見つめ工学部を目指して入学した学生に対して、大学がどのようにその将来に関わって行くかということだと思っています。進学や就職、その後の人生において様々な場面で選択が求められます。社会に踏み出す基点となる大学は、学生が自ら人生を切り拓いてゆく能力を磨く場であるとともに、将来にわたって最先端技術・学問の府として卒業生の拠り所であればなりません。一人一人の教員

も、そういった覚悟をもって、日々の教育・研究に努力しています。私は、これで大学を去りますが、今後も「学生を主体」の山形大学の発展を見守ってまいります。学生の皆さんには、自らの人生を切り拓く力をより一層磨くとともに、社会に出てからも先輩、後輩、諸先生と共に学んだ山形大学に思いを寄せ、また、人生の転換点などでは遠慮なく大学の門を叩き活用して頂きたいと思います。

黒田 私が、学生、あるいはこれから山形大学を目指している方々、それからそのご家族の方々に伝えたいのは、山形大学工学部では学生30~40人に一人、アドバイザー教員が付くと言うシステムがあることです。学生を指導する教員は明確化されています。そのアドバイザー教員の上には学科長がいて、しっかり責任を持つという体制になっています。入学した学生は、最初のオリエンテーションだけでいろいろなことが理解できる人もいますが、もちろん分からなくて聞きたいという人もいでしょう。学生の皆さんが一つひとつ理解して成長してもらうという体制を整えています。ぜひ安心して我々にお任せください。また、何か問題があれば申し出ていただき、必ず解決の方策を検討していきます。授業やサークル、様々な場面で学生と向き合いながら、学生には安心して学生生活を送ってもらい、人間力も磨き、研究にも力を入れていく。そして学問的、技術的なところで教員と対等に議論して研究を進められるようになれば、将来も輝かしいものになるでしょう。ぜひ山形大学工学部で学んでいただければと思います。





ごあいさつ

工学部長 黒田 充紀

令和4年4月1日より工学部長の職に就きました黒田充紀（くろだ みつとし）と申します。工学部後援会会員の皆様には、日頃から教育・修学環境向上ならびに学生の課外活動に対し多大なるご支援を頂きまして心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収束には達していませんが、過去2年間の経験を通して、各所において必要な対策を講じながら上手に社会活動を推進していく方法が模索され徐々に収束への道筋が見えてきたのではないのでしょうか。

令和4年度前期の授業は、基本的には対面で行うこととしつつ、オンライン授業も併用で進めております。いずれの授業においても、電子授業システム（本学ではWebClass）が利用されていますので、課題・宿題等は電子ファイルで提出可能で、成績管理や質疑応答もシステム内で行えます。このように電子授業システムを基盤としつつ、講義と議論は基本的には教室における対面で行いますが、いつでもそれらをオンライン（ZOOM）に切り替え可能な体制を準備しています。どちらにしても、電子授業システムにおいて教員と学生は常時繋がっている状態ですので、学修効果は確実に向上していると感じます。

平成29年度より、建築・デザイン学科を新設しましたが、これまで同学科のみ小白川キャンパス（山形市）で運営してきました。この度新しい教育研究棟が竣工し、今年3月末に同学科の米沢キャンパスへの全面移転が完了しました。米沢は、江戸時代を通して上杉家が統治した歴史ある街です。江戸時代初期の執政 直江兼続公が主導して整備した広域に亘る水路群や江戸期の下級武家屋敷を始めとする多くの歴史的遺産が現存しており、独特の風習も継承され現在に至っています。地域全体がこれからの持続可能社会のあり方を考えるにあたっての良い教材と言えます。学生の皆さんがフィールドワーク等でキャンパス外に出かけ、地域社会と触れ合うことによって、これからの社会に対する斬新なアイデア

が生まれることを期待します。また、米沢市では、春、夏、秋、冬にそれぞれお祭りがありますので、こうした機会も利用して多くの学生が地域との関わりを持ってほしいと思います。

課外活動（サークル活動）に関しては、2年間に渡り活動が制限されたり、断続的になったりとコロナ禍の影響は少なくありませんでした。コロナウイルスへの感染が連鎖的に起こった事例がいくつか発生しましたが、そのほとんどが会食由来でした。学生同士が課外で自由に交流できないという大変辛い時代ではありますが、十分な注意を払いつつ、スポーツや文化活動は大に行って納得のいく成果が得られることを期待します。

工学部では、例年10月に、市内にある県立米沢女子短期大学、同米沢栄養大学と合同での学園祭「吾妻祭」を開催してきました。過去2年間は残念ながら開催を見合わせてきましたが、今年度は対面で開催する予定であります。2年開きますと実際の吾妻祭主催を経験した学生はフレックスコースの4年生あるいは大学院に進学した元実行委員ということになります。これまで学園祭の継続・継承も大切ですが、ゼロから新たに作り上げていく過程もまた楽しくやりがいがありますので、学生の皆さんの頑張り期待したいと思います。

就職に関しては、内定状況を見ている限り、工学系においてはそれほど変化がなく順調と言えます。工学系の学部・大学院では、各人が専門的な強みを身につけることができますので、どのように社会に貢献するかを優先して進路を考えてほしいと思います。持続可能社会の実現を念頭におきつつ、各人がこれと思った方向に自信を持って第一歩を踏み出して頂きたいです。工学系人材の活躍の場は社会の広い範囲に渡りますので、大学・大学院時代に広い視野を身につけてほしいと思います。

教職員一丸となって教育・研究・大学運営に努めてまいりますので、引き続きご支援を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

学務委員会だより

学務委員会委員長 増原陽人

(大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授)



学務委員会は、学部における教育カリキュラムと、学生の大学生活の支援のための実務や様々な支援を担当しております。諸先生ならびに諸先輩方の御苦

労もあり、旧7学科から新学科である「高分子・有機材料工学科」、「化学・バイオ工学科」、「情報・エレクトロニクス学科」、「機械システム工学科」、「建築・デザイン学科」とフレックスコースである「システム創成工学科」の6学科での教育も混乱無く進めてきております。学生生活では、新型コロナウイルスによるストレス、インターネットやSNSの利用問題、Webによる新たな講義の受講形態等、これまでの大学生活とは大きく変革してきております。

徐々にコロナ以前の生活に戻りつつありますが、完全に元に戻ることはないと言われており、ポストコロナ時代に向かって学生・教職員共々、新たなスタイル・課題に対応するための努力が求められてきております。学生へのケアでは、日常生活に於ける心のケア等を学生相談室、障がい学生支援センターと連携しながらきめ細かな対応を行っております。大学生活は、長距離走の様なものです。多くの経験を積んで、その中から何かを学んでもらえればと思っております。保護者の皆様におかれましても、ご子息・ご令嬢の様子に注意を向けていただき、何か不安な点が御座いましたら、アドバイザー教員等へ相談頂きますよう宜しく御願ひ申し上げます。

教務委員会だより

教務委員会委員長 齊藤敦

(大学院理工学研究科 情報・エレクトロニクス専攻 教授)



教務委員会は、大学院博士前期課程、及び大学院博士後期課程のカリキュラム運営を担当する部門であり、次世代を形成する優れた人材を育成するために

様々な取り組みを行っています。2021年度に大学院博士前期課程（理工学研究科）が改組され、工学系として新たに4専攻をスタートしました。これらの専攻では高度な人間力と知の総合的な推進力を育成し、学生の多様化に対応するためのカリキュラムを実施しており、2022年度末に第1期生が修了を予定しています。また、2023年度には、大学院博士後期課程の改組を予定しており、これまでの5専攻を1専攻にまとめた「先進工学専攻」が新たに

設置されます。本新専攻では、工学の諸分野に関する科学を深め、異なる分野を融合して新しい工学の概念と技術を創生していく「先進工学」に関する教育・研究を推進する予定です。さらに、博士後期課程の学生を強力にサポートするための取り組みとして、2021年度より山形大学大学院科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業「ソフトマターイノベーション博士人材育成プログラム」に採択され、社会を革新する高度博士人材の育成に取り組んでいます。学生たちが自由に学び、自立していく仕組みを作っていくために、教職員一同様々な取り組みを進めてまいりますので、関係の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

山形の未来を切り開け！



国際交流活動および留学プログラムについて

工学部国際交流センター副センター長 准教授 仁科 浩美

2021年度もCOVID-19により海外派遣・受入れ共に非常に困難な1年でした。「工学部国際連携サマープログラム in タイ」も次年度に再延期となりましたが、代替プログラムを5月から12月にわたり、「カーボンニュートラルの実現」をテーマにタイのカセサート大学理学部の学生とオンラインで実施しました。いかに毎日の生活でCO₂を排出しているかを英語のサイトを使って計算し、結果を踏まえた上で、それぞれの環境下でのアクションプランを考え、英語で発表しました。両校の学生生活の違いも感じられ、数多くの質問が飛び交いました。また、従来、派遣時には現地企業で働く卒業生を訪ねる活動も行っていましたが、これも今回は変更を余儀なくされ、8年前に同プログラムに参加した卒業生をオンラインでつなぎ、海外勤務や海外出張などグローバルな業務の実態について話を聞く新たな形式での実施となりました。

9月には外務省による対日促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」(JICE実施)が開催され、工学部生が米国のグアムおよびフロリダの大学生と気候変動・環境をテーマに活発なオンライン交流を行いました。

キャンパス内においては、国際交流サークルYUICYの学生と共に、学生食堂前の広場に“Diversity Square”と名付けられた多文化共生や多様性への意識を高める緑の空間を整備しました。もうすぐカラフルな花が咲き揃いそうです。

2022年5月現在、まだ様々な制約はあるものの、外国人留学生の来日が再開され、派遣についても長期の留学へと飛び立つ学生が現れ始めています。留学プログラムには下表のようなものがありますので、機会を逃すことなくチャレンジしていただければと思います。



タイとのオンライン交流



学生食堂前のDiversity Square

工学部生が活用できる 主な留学制度一覧

(2022.3現在 ※ただし、コロナの影響で中止となることがあります)

派遣	派遣主体	派遣先の種類	実施期間	募集時期(概ね)	実施開始時期(概ね)
短期交換留学(派遣)	山形大学	大学間交流協定校	6ヵ月～1年間	10月	翌8月～
短期交換留学(派遣)	山形大学工学部	学校間交流協定校	6ヵ月～1年間	10月	翌8月～
「学生大使」プログラム(単位認定外・通年派遣型)	山形大学	本学海外拠点設置大学(大学間交流協定校)	2週間～1ヵ月程度	6月～翌1月	7月～翌3月
「学生大使」プログラム(基盤共通教育集中講義)	山形大学	本学海外拠点設置大学(大学間交流協定校)	2週間～1ヵ月程度	前期：6月 後期：10月	前期：8～9月 後期：翌2月～3月
海外拠点大学への超短期派遣プログラム(他大学のサマープログラムなど)	山形大学	本学海外拠点設置大学(大学間交流協定校)	10日間程度	未定	未定
海外研修実習(工学部)	山形大学工学部	指導教員等と研究交流がある海外大学等の研究室	1～2週間程度	5～6月	7月～翌3月
国際連携サマープログラム(派遣、受入を概ね隔年で実施)	山形大学工学部	学部間・大学間交流協定校	10日間程度	6月	8月～9月

学科(専攻)だより

高分子・有機材料工学科

学科長 教授 西岡 昭 博



昨年も続いた新型コロナウイルスの影響により在學生はこれまで経験したことのない様々な制約の中での学生生活を余儀なくされたものと思います。この影響により大半がオンライン講義となり学生達にとっては友人や教員との対面での交流が制限

されることになりました。本学科教員もこのような制限のある中でも最大限の学習環境を提供すべく努力をしておりましたが、学生達にとっては慣れない環境の中での修学となり苦勞も多かったように思います。一方で卒業研究発表会や修士学位論文公聴会については対面とオンラインのハイブリット形式での開催が根付き、コロナ渦の中での収穫でもあったように思います。また学会の中止なども相次ぎ教員や学生の学会発表の機会が少なくなりましたが、最近では学会のオンラインでの開催が増え教員や学生の受賞報告が多く届いています。

今年度については前年度までの経験を踏まえ、感

染対策を徹底した上での対面講義も増え、制限のある中でも少しずつ普段の状況を取り戻しつつあるようにも感じます。学科の教職員はコロナ渦という厳しい環境下であっても、充実した学生生活を提供すべく努力と工夫を行っていきます。引き続き、本学科の活動に対して保護者の皆様、後援会の皆様からの温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



「ベストプレゼンテーション賞」の表彰式
(修士学位論文公聴会、卒業研究発表会)(2022年2月)

化学・バイオ工学科

学科長 教授 遠藤 昌 敏



この冬は寒くて雪もとても多いと感じましたが、記録的にはさらに上の年があったようです。写真は化学・バイオ工学科の学生の多くが入っている3号館の周囲の冬の光景ですが、このような雪も桜の時期までには解けてなくなります。

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大を抑えながら、どのように教育的な効果を高められるかを考える一年でした。オンラインのメリットを活かしながら対面での講義の充実、密を減らすための期間前倒しでの学生実験、なるべく通常通りに近い研究活動など。状況を見極めての対面式での学会が開催されてきており、今後は感染対策が施されながらも通常に近い日々になり、学生の皆さんには専門的な勉学および研究に取り組み、仲間と充実した生活を送って頂きたいです。

本コースの学生の多くは、化学、新素材、環境、各種製造業への就職および進学を希望しています。就職活動も移動の制限が緩和されてからはオンラインのみではなく、終盤では直接会っての面接が主になってきています。

今後とも本学科の活動に対してご理解いただき、皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



2号館と3号館の間の通路
(令和4年2月1日)



液体窒素貯蔵タンク上の雪
(令和4年2月7日)

情報・エレクトロニクス学科

学科長 教授 深見 忠典



平成29年度の学科改組により誕生した情報・エレクトロニクス学科もすでに今年度で6年目を迎えました。本学科には情報・知能コースと電気・電子通信コースの2コースが設置されていますが、現

在様々な点において、両コースの融合に向けた取り組みを行っております。その一例が授業科目の統合です。これまで同一科目名でありながら、各コースで開講されていた科目の統合を進めております。これは、授業の効率化だけでなく、異なるコースに所属する学生が同じ教室で学び交流する機会が増えることで、お互い協力し不得意な部分を補い合い、得意な部分を高め合うことが期待されます。今後、こうした取り組みを少しずつ積み重ね、真の意味での1つ

の学科を目指して参ります。保護者並びに後援会の皆様には、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2つのコースの学生が受講する講義風景

機械システム工学科

学科長 教授 峯田 貴



2020年度末に学科改組後の最初の卒業生を送り出し、2021年度は大学院改組で誕生した博士前期課程の新専攻として1期生を迎えました。本専攻は改組後も名称は同じですが、学生定員も増員となり、年々進む機械工学の拡大と多様化に対

きました。教職員一同が様々な工夫を重ね、学生一人一人が不安な生活の中、適切に過ごしてきた賜物と思います。この2年間も本学科・本専攻では比較的好調な就職状況で、社会からの期待を感じています。今後は平常に戻っていくことを願いつつ、教職員一同、一層の充実に努めて参ります。保護者の皆様方の暖かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

応し、バイオニクス分野等も加えて幅広い領域の研究・教育を推進しています。2021年度もコロナ禍が続きました。本学科では、機械に実際に触れて実践力を修得する機会を重視し、実習・実験科目は前期のうちから対面での実施に務めました。研究室での卒研と大学院の活動は、年間を通じ問題なくほぼ継続で



本学科・専攻独自に開催した卒業時の優秀学生・各学会賞等の表彰式

建築・デザイン学科



2017年に新しく誕生した建築・デザイン学科は、2022年4月より米沢キャンパスに拠点を移しました。移転に伴い、実験・観測設備の整備、設計製図環境の充実を進めています。

学生の活動では、第25回（JIA）東北建築学生賞において安部豪人君が奨励賞を、吉澤航平君と長岡大和君がそれぞれ特別賞を受賞しています。また、日本建築構造技術者協会（JSCA）東北支部による第7回構造デザインコンテストにおいて、阿部花織里さん、山中美紀さん、高橋玄君、滝田真大君のグループが優秀賞を受賞しました。

教員組織に関する話題としては、2022年4月から宗政由桐准教授を新たに迎えたほか、高澤由美准教授

学科長 教授 三 辻 和 弥

が昇任されました。これからも地域に根差した新しい試みに挑戦していければと考えております。今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



8号館実験装置

システム創成工学科



2010年に設置されたシステム創成工学科は今年度13期生を迎えました。本学科は少人数教育を特徴の1つとしており、特許教育にも力を入れています。

「システム創成入門」では特許について学びながら学生自らが特許案を考え、優れたものを文部科学省らが主催するパテントコンテストに毎年応募しています。昨年度のパテントコンテストでは1年生3名が優秀賞に選ばれました。大学院への進学も念頭に置いた教育カリキュラムを実践しており、昨年度は50%の学生が大学院に進学しました。

本学科の学生は、2年次以降工学部内各学科の専門教育を受けます。今年度から建築・デザイン分野も選択できるようになり、より充実したカリキュラムが展

学科長 教授 片 桐 洋 史

開されています。キャンパスでは対面授業が主体となり活気が戻りつつあります。充実した学生生活を送れるよう教職員一同努めてまいります。今後とも皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



「システム創成入門」講義の様子

キャリアサポート室だより

就職活動と後輩へのアドバイス



就職活動と後輩へのアドバイス 機械システム工学科 4年 尾形 友也

私は、B3の秋ごろから就職活動を始めました。その当時は、どの業界で働きたいという明確な目標がありませんでした。そこで、

私が就職活動をするにあたって、心がけていたことが3つあります。

1つ目は、「多くの説明会やインターンシップに参加すること」です。企業のホームページを見ることである程度の企業研究を行うことが出来ますが、やはり企業の雰囲気を知ることや、社員の方とお話する機会を得るためにも多くのイベントに参加することをお勧めします。

2つ目は、「早めに行動すること」です。近年、就職活動の早期化が加速しており、従来の選考スケジュールを参考にするだけでは、今後の就職活動に

は対応できないと思います。そこで、早めにWEBテストの勉強やエントリーシート作成、面接練習を行うことが大切だと思います。

3つ目は、「友人と就職活動についての話をすること」です。就職活動は長期戦なので、モチベーションの維持が難しいです。そこで、友人と就職活動の話をすることにより、就職活動に対して熱心に取り組んでいる人の行動を知ることができ、モチベーションの維持にも繋がります。また、友人と話をするのは息抜きにもなりますので、お勧めです。

就職活動は長期的なものであるため、途中で不安になることも多々あると思いますが、その時は友人と遊んだり運動をしたりして、メリハリを付けたいと思います。自分に自信を持って頑張ってください！



就活報告について

有機材料システム専攻 2年 岡田 朋也

私が就活を意識し始めたのはM1のゴールデンウィーク頃です。まずは先輩が受けていた会社について調べていき、自分の興味のある会社を探していきました。企業研究を進めていく中で、会社全てにそれぞれ個性があり楽しそうだったので、さまざまな会社の説明会に参加しました。その中で就活の軸を考えていき、最も良いなと思った会社のセミナーに複数回参加し、早期選考で内定をいただきました。

就活で特に重要視して取り組んだことは自己分析です。まず自分自身を知ること、価値観や強み弱みを見つめ直し、自分に合いそうな会社選びをしていきました。

そして、興味がある会社のインターンがあればぜひ参加して下さい。私は夏のインターンに応募し、選考で落ちたことで危機感を覚え、より一層自己分析やガクチカなどを掘り下げようと思いました。

就活を進めていく中で、周りと比べてしまって、不安になり焦ることもあると思います。しかし必要以上に恐れず、先輩や同期、キャリアサポートセンター等も活用し、自分を信じて挑戦してください。

今後の就活はより早期化や対面の面接も増えて行くとおもいます。早くから行動することのデメリットはありません。就職することが人生のゴールではありませんが、悔いの残らない就活ができるよう頑張ってください!!!

令和3年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

1. 工学部

(令和4年4月15日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼間・情報・電気・機械・システム創成	高分子・有機材料工学科	キオクシア岩手(株)(2名)、UTエイム(株)、岩手県警、エス・デーソフトウェア(株)、関東化学(株)、皇宮警察本部、サイバーコム(株)、サンリット工業(株)、第一貨物(株)、中越パルプ工業(株)、日星電気(株)、ニプロ医工(株)、ニプロファーマ(株)、前澤化成工業(株)、マイクロ精密(株)、山形カシオ(株)、山形県職員、ヨシオ工務店、(株)DNPファインケミカル、(株)アテック、(株)アネシス、(株)有沢製作所、(株)クレスコ、(株)コアコンセプト・テクノロジー、(株)セイシン企業、(株)仙台ニコン、(株)東北イノアック、(株)日新製菓、(株)ニッター、(株)メイコー、山形県教員、山形大学大学院(104名)、東京工業大学大学院、新潟大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学	
	化学・バイオ工学科	ニプロファーマ(株)(3名)、青森県職員、秋田市職員、イオン東北(株)、エスアイアイ・クリスタルテクノロジー(株)、桑名商事(株)、経済産業省 北海道経済産業局、山栄化学(株)、白鳥製薬(株)、新薬品工業(株)、積水ハウス不動産東北(株)、石油資源開発(株)、千住金属工業(株)、ダイキンHVACソリューション(株)、大正製薬(株)、ダイトロン(株)D&Pカンパニー、ディップ(株)、天昇電気工業(株)、東京計装(株)、栃木カネカ(株)、新潟染工(株)、ニックス(株)、日新製菓(株)、日本軽金属(株)、日本データスキル(株)、日本ファインセラミックス(株)、福島県職員、フジクラ電装(株)、フタバ食品(株)、プラス・テック(株)、宮城県職員、明和工業(株)、湯沢市職員、ユニオンツール(株)、横浜税関、りそなデジタル・アイ(株)、レイズネクスト(株)、(株)アリミノ、(株)エム・エス・アイ、(株)でん六、(株)トラストネットワーク、(株)ナミックス、(株)日立プラントサービス、(株)ファイバーゲート、(株)松風、(株)村村電機製作所、(株)ミマキエンジニアリング、(株)メンテック、(株)モリタン、(株)ヤガイ、(株)ヤマダフーズ、(株)横浜リテラ、(株)米沢食肉公社、(株)リード、山形大学大学院(68名)、岐阜大学大学院、東京工業大学大学院、東北大学大学院、長岡技術科学大学大学院	
	情報・エレクトロニクス科	(株)ソフトクリエイトホールディングス(10名)、東北電力(株)(4名)、山形県職員(2名)、(株)ユアテック(2名)、J-POWERジェネレーションサービス(株)、NECプラットフォームズ(株)、VITALIFY Asia Co.,Ltd.、アール・ビー・コントロールズ(株)、アイエスシー(株)、愛知県警、アズビル金門(株)、アリオンテック(株)、市光工業(株)、エリクソンジャパン(株)、岡谷電機産業(株)、シャープNECディスプレイソリューションズ(株)、セコム工業(株)、データコム(株)、テクノプロバイド(株)、東京システムハウス(株)、東邦ガスエンジニアリング(株)、トヨタ自動車東日本(株)、ニプロ医工(株)、日本精機(株)、日本電設工業(株)、ハッピージャパン(株)、パナソニックLSIエンジニアリング(株)、日立ジョンソンコントロールズ空調(株)、富士フィルムBI山形(株)、三菱電機デジタルエンジニアリング(株)、三菱電機特機システム(株)、宮城県職員、山形カシオ(株)、(株)BSNアイネット、(株)KDDIエボルバ、(株)KSK、(株)YKK、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)アドバンス・メディア、(株)エクスード、(株)かわでん、(株)キューブシステム、(株)クリップス、(株)シエルトゥ、(株)セントラル情報センター、(株)データシステム米沢、(株)デジタルトラスト、(株)デンソーFA山形、(株)デンソー山形、(株)ナビタイムジャパン、(株)日立ソリューションズ東日本、(株)フジキン、(株)プレミアムアーツ、(株)メイテック、(株)ヤマザウ薬品、(株)共栄システムズ、(株)秋田銀行、(株)日立ソリューションズ東日本、(株)日立国際電気、佐渡市職員、朝日システム(株)、東北電化工業(株)、日本年金機構、富士ソフト(株)、理研計器(株)、山形大学大学院(54名)、筑波大学大学院、東京工業大学大学院、富山大学大学院、横浜国立大学大学院、京都大学大学院、東北大学大学院	
	機械システム工学科	NITTOKU(株)(2名)、旭陽電機(株)(2名)、ジヤトコ(株)(2名)、スタンレー電気(株)(2名)、トヨタ自動車東日本(株)(2名)、ASEジャパン(株)、JFEコンテナ(株)、NECソリューションイノベーター(株)、SMC(株)、SWS東日本(株)、アイベックスエアラインズ(株)、アリスオーヤマ(株)、旭陽電機(株)、アリオンテック(株)、アルプスアルパイン(株)、飯豊町職員、エプソンアドミックス(株)、工機ホールディングス(株)、郡山ヒロセ電機(株)、三和工機(株)、静岡県職員、スズキ(株)、スマダ電機(株)、大同信号(株)、大和製罐(株)、東北エプソン(株)、ニチコン(株)、日進工具(株)、日本GT(株)山形工場、日本アビオニクス(株)、日本原燃(株)、パーソルAVCテクノロジー(株)、富士フィルムテクノプロダクツ(株)、古河機械金属(株)、前澤給装工業(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、ミネバアミツミ(株)、宮城県職員、山形トヨペット(株)、ヤマダホールディングス(株)、レノボ・ジャパン合同会社、(株)FREEDiVE、(株)JTT、(株)アイシン、(株)ヴィックスコミュニケーションズ、(株)かわでん、(株)カノンセツ、(株)コロナ、(株)三五、(株)ジーエスエレクトリック、(株)ジャンプジャパン、(株)デンソーFA山形、(株)パロマ、(株)マクニカ、(株)メイテック、(株)メイテックフィルダース、(株)山形生コン、(株)ユアテック、(株)小糸製作所、日鉄テックスエンジニアリング(株)、山形大学大学院(69名)、東北大学大学院(4名)、横浜国立大学大学院(2名)、宇都宮大学大学院、千葉大学大学院、筑波大学大学院、東京大学大学院	
	建築・デザイン学	(株)竹中工務店(2名)、AISOHO(株)、外務省、岳南建設(株)、大和リース(株)、前田製管(株)、(株)NTTデータ東北、(株)イズミシステム設計、(株)一条工務店仙台、(株)ウィズライフデザイン、(株)オノヤ、(株)オリバー、(株)鴻池組、(株)サンケイビル、(株)泰伊藤建築設計事務所、(株)ホリエ、(株)山形企業、(株)乃村工藝社、山形大学大学院(6名)、東京都立大学大学院、東北大学大学院、福島大学大学院	
フレックスシステム創成工学科	パーソルR&D(株)(2名)、ASEジャパン(株)、秋田県教員、共同カイテック(株)、小岩井農牧(株)、シャチハタエンジニアリング(株)山形工場、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、東京計器(株)、東北パイオニア(株)、トヨタ紡織(株)、日機装(株)、ハイメカ(株)、平河ヒューテック(株)、古河電池(株)、山形酸素(株)、リコージャパン(株)、(株)アイセロ、(株)ソリマチ技研、(株)デンソーFA山形、(株)ブルボン、(株)山形県JAビジネス、(株)山本製作所、(株)日研トータルソーシング、住友電工情報システム(株)、山形大学大学院(26名)、岡山県立大学大学院、東北大学大学院		

2-1. 大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
物質化学工学専攻	住友大阪セメント(株)(2名)、DIC(株)、DOWAホールディングス(株)、JASCOエンジニアリング(株)、JFEエンジニアリング(株)、アキレス(株)、旭有機材(株)、いわき市職員、エス・エス・アルミ(株)、京セラ(株)、クニミネ工業(株)、クレハ(株)、グンゼ(株)、ケイミュー(株)、堺化学工業(株)、昭和電工マテリアルズ・テクノサービス(株)、信越化学工業(株)、新光電気工業(株)、住友ベークライト(株)、太平洋電業(株)、デクセラアルズ(株)、デンカ(株)、東芝マテリアル(株)、ニチアス(株)、日新製菓(株)、ニッタン(株)、日東紡績(株)、日本原燃(株)、日本コークス工業(株)、日本ドライケミカル(株)、パナソニック(株)、ピネフレム工業(株)、富士電機(株)、松田産業(株)、吉野石膏(株)、(株)JSP、(株)キミカ、(株)トリケミカル研究所、日本磁力選鉱(株)、山形大学大学院(2名)	
バイオ化学工学専攻	協同油脂(株)、三協化成(株)、スズキハイテック(株)、デンカ(株)、東ソー(株)、凸版印刷(株)、ニチアス(株)、日新製菓(株)、ニプロ(株)、藤倉化成(株)、富士電機(株)、三菱ケミカル(株)、山形県科学捜査研究所、(株)ADEKA、(株)井上香料製造所、(株)クレハ、(株)コスモビューティー、(株)ナリス化粧品、(株)フジキン、山形大学大学院(2名)、京都大学大学院	
応用生命システム工学専攻	(株)ナカニシ(2名)、NECソリューションイノベーター(株)、Tianma Japan(株)、旭カーボン(株)、安西メディカル(株)、川澄化学工業(株)、スズラン(株)、セントラルソフト(株)、大同信号(株)、東北NSソリューションズ(株)、東北電力(株)、東洋製罐グループホールディングス(株)、日販テックシード(株)、ニプロ(株)、日本軽金属(株)、日本システム開発(株)、富士紡ホールディングス(株)、ラピセセミコンダクタ(株)宮城工場、(株)エムシー、(株)共和電業、(株)ジェイテクト、(株)シャフト、(株)ソフトウェアサービス、(株)タチエス、(株)トプコン、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所、(株)日立製作所、(株)モリタ製作所	
情報科学専攻	(株)NTTドコモ(2名)、NECエンベデッドプロダクツ(株)、NECネットエスアイ(株)、キャノン(株)、シーエーシー、テクノプロバイド(株)、楽天グループ(株)、(株)SBS情報システム、(株)YCC情報システム、(株)アルトナー、(株)オプティム、(株)シーエーシー、(株)システムサービス、(株)ソフトクリエイトホールディングス、(株)トプコン、(株)メイテック、(株)メンバーズ、(株)物語コーポレーション、(株)日立ハイシステム21、三菱電機エンジニアリング(株)、三菱電機(株)、東芝システムテクノロジー(株)、日本プロセス(株)、富士通(株)、山形大学大学院(2名)	
電気電子工学専攻	東海旅客鉄道(株)(2名)、東北電力(株)(2名)、東日本旅客鉄道(株)(2名)、NTTデータシステム技術(株)、TDK(株)、川崎重工業(株)、シャープディスプレイテクノロジー(株)、新菱冷熱工業(株)、スズキ(株)、セイコーエプソン(株)、ソフトバンク(株)、トヨタ自動車東日本(株)、長野日本無線(株)、日産化学(株)、日本工営(株)、日本信号(株)、ファナック(株)、富士電機(株)、本田技研工業(株)、(株)NS・コンピュータサービス、(株)ツガミ、(株)ナカニシ、(株)ブレック、(株)村田製作所、(株)明電舎、(株)リケン、東京エレクトロン(株)	

機械システム工学専攻	富士電機(4名)、いすゞ自動車(3名)、東北電力(2名)、(株)日立ハイテック(2名)、SOLIZE(株)、SUBARU(株)、THK(株)、アドバンテスト(株)、アルプスアルパイン(株)、エムテックスマツムラ(株)、鹿島建設(株)、キオクシア岩手(株)、極楽麦酒本舗、住友ケミカルエンジニアリング(株)、住友重機工業(株)、積水化学工業(株)、大陽日酸(株)、東京エレクトロングループ、東洋エンジニアリング(株)、豊田合成(株)、トヨタ自動車東日本(株)、日鉄テクノロジーズ(株)、ニプロ医工(株)、ハウス食品(株)、東日本旅客鉄道(株)、北越工業(株)、本田技研工業(株)、マレリ(株)、ミネベアミツミ(株)、(株)アドテックス、(株)オプティム、(株)クレハ、(株)国際電気セミコンダクターサービス、(株)システムスクエア、(株)シンワ機械、(株)タカゾノ、(株)タンガロイ、(株)デンソー、(株)トップ、(株)トプコン、(株)日立建機ティエラ、(株)日立パワーソリューションズ、(株)マキタ、(株)三井E&Sマシナリー、(株)山形カシオ、(株)ココオ、(株)リード、(株)ワールドインテック、(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス、東北大学大学院
ものづくり技術経営学専攻	NITTOKU(株)、日立建機日本(株)、米沢アルミ(株)、(株)荘内銀行、(株)リード

2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	アキレス(株)2名、キオクシア(株)2名、(株)タムラ製作所2名、デンカ(株)2名、三井化学(株)2名、ローム(株)2名、AGCエレクトロニクス(株)、BASFジャパン(株)、朝日インテック(株)、アプライドマテリアルズジャパン(株)、ウエスタンデジタル合同会社、キオクシア岩手(株)、ギガフォトン(株)、京セラ(株)、信越ポリマー(株)、スタンレー電気(株)、セイコーエプソン(株)、セメダイン(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、大日本印刷(株)、デクセリアルズ(株)、テルモ(株)、天昇電気工業(株)、東レプラスチック精工(株)、凸版印刷(株)、トヨタ自動車東日本(株)、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、日本食品化工(株)、日本電子(株)、日本パーライジング(株)、ヌヴォンテクノロジージャパン(株)、フジフーズ(株)、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株)、プラス・テック(株)、ホーチキ(株)、北海道電力(株)、ポリプラスチックス(株)、三菱ケミカル(株)、ムネカタ(株)、山形県職員、旭有機材(株)、(株)NTTデータフィナンシャルソリューションズ、(株)VSN、(株)アスパーク、(株)エースジャパン、(株)クスリのアオキ、(株)クラレ、(株)ジーシー、(株)スリーボンド、(株)ダイクレ、(株)ニフコ、(株)ニューフレアテクノロジー、(株)パウハウス・エンタテインメント、(株)フジクラ、(株)山形県自動車販売店リサイクルセンター、(株)東海理化電機製作所、(株)日立ハイテックフィールディング、全国農業協同組合連合会、中央発條(株)、日本精機(株)、山形大学大学院(6名)	

3-1. 大学院理工学研究科(工学系)博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
物質化学工学専攻	産業技術総合研究所、昭和電工(株)	
バイオ工学専攻	産業技術総合研究所	
機械システム工学専攻	有職者(1名)	
ものづくり技術経営学専攻	有職者(1名)	

3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	東京工業大学、日産自動車(株)、日本ペイントホールディングス(株)、三菱ケミカル(株)、(株)テクノプロ テクノプロ・R&D社、出光興産(株)、保土谷化学工業(株)、山形大学、有職者(1名)	

令和3年度 卒業・修了予定者の就職状況

(令和4年4月15日現在)

学科・専攻別	工学部 昼間・Aコース										工学部 フレックスコース		博士前期								合計		
	機能高分子工学専攻	高分子・有機材料工学専攻	バイオ化学工学専攻	化学・バイオ工学専攻	電気電子工学専攻	情報・エレクトロニクス専攻	機械システム工学専攻	建築・デザイン工学専攻	計	システム創成工学専攻	計	有機材料システム専攻	物質化学工学専攻	バイオ化学工学専攻	工応用生命科学システム専攻	情報科学専攻	電気電子工学専攻	機械システム工学専攻	経営学専攻	ものづくり技術専攻			
概況	卒業・修了予定者数	1(0)	141(19)	1(0)	135(38)	5(0)	143(8)	147(9)	31(16)	604(90)	56(6)	56(6)	77(9)	43(6)	22(10)	29(6)	27(2)	32(0)	60(1)	7(1)	297(35)	957(131)	
	就職希望者数	0(0)	32(7)	1(0)	56(21)	3(0)	76(5)	64(2)	19(10)	251(45)	25(4)	25(4)	67(6)	40(6)	19(10)	29(6)	25(2)	30(0)	56(0)	7(1)	273(33)	549(82)	
	自営希望者数	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)
	進学希望者数	0(0)	107(12)	0(0)	72(15)	0(0)	60(2)	80(7)	11(5)	330(41)	28(2)	28(2)	6(1)	0(0)	3(0)	0(0)	2(0)	0(0)	1(0)	0(0)	12(1)	370(44)	
	その他	1(0)	2(0)	0(0)	7(2)	2(0)	6(1)	3(0)	1(1)	22(4)	2(0)	2(0)	4(0)	3(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	3(1)	0(0)	12(1)	36(5)	
状況	就職内定者数	0(0)	32(7)	1(0)	56(21)	3(0)	77(5)	64(2)	19(10)	252(45)	26(4)	26(4)	67(8)	40(6)	19(10)	29(6)	25(2)	30(0)	56(0)	5(1)	271(33)	549(82)	
	未内定者数	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	2(0)	2(0)	
	内定率(%)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	71.4	99.3	99.6	
就職決定率(%)	0.0	94.1	100.0	88.9	60.0	92.8	95.5	95.0	92.0	92.9	92.9	94.4	93.0	100.0	100.0	100.0	93.8	94.9	71.4	95.1	93.5		

[注] ()内の数字は女子を示し内数である。就職内定率：就職内定者数÷(就職希望者数+自営希望者数)
就職決定率：就職内定者数÷(卒業・修了予定者数-進学希望者数)である。

県内就職内定者数	0(0)	8(2)	1(0)	5(1)	2(0)	13(0)	12(0)	6(3)	47(6)	9(2)	9(2)	5(1)	1(1)	4(1)	0(0)	1(0)	0(0)	4(0)	2(0)	17(3)	73(11)
県内就職内定率		25.0	100.0	8.9	66.7	16.9	18.8	31.6	18.7	34.6	34.6	7.5	2.5	21.1	0.0	4.0	0.0	7.1	40.0	6.3	13.3

山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

(1) 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者

(2) 工学部に勤務する教職員

(3) 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成

(2) 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成

(3) その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長

(3) 理事

(4) 監査

(5) 幹事

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。

(1) 会長は、会員の推挙による。

(2) その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員任務は次のとおりとする。

(1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。

(3) 理事は、本会の重要案件を審議する。

(4) 監査は、本会の会計を監査する。

(5) 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたと
きは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

(1) 会務の報告

(2) 事業計画に関すること。

(3) 予算及び決算に関すること。

(4) 会則の改正に関すること。

(5) 会長の推挙に関すること。

(6) その他理事会において必要と認められた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるとし、保
護者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

(1) 会員名簿

(2) 役員名簿

(3) 会議録

(4) 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育
後援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費
は、次のとおりと定める。

(1) 学部学生の保護者 26,000円

(2) 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円

(3) 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円

(4) 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円

(5) 本会の趣旨に賛同する者

令和3年度 一般会計収支決算書 及び 令和4年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位:円)

項 目	令和3年度			令和4年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
会 費	21,820,500	19,695,000	△ 2,125,500	22,509,500
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	2,000	37,758	35,758	2,000
繰 越 金	6,898,253	6,898,253	0	9,707,769
合 計	28,720,753	26,631,011	△ 2,089,742	32,219,269

支出の部

項 目	令和3年度			令和4年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
1 学科厚生補導費	1,271,900	1,271,900	0	1,301,900
学部学生指導 補助費	576,800	536,800	40,000	587,200
学科行事等 補助費	695,100	735,100	△ 40,000	714,700
2 一般厚生補導費	3,793,500	1,155,790	2,637,710	3,661,500
国際交流関係 補助費	500,000	10,304	489,696	500,000
TOEIC-IP テスト補助費	1,000,000	903,600	96,400	1,000,000
学務関係補助費	1,000,000	38,865	961,135	1,000,000
保健管理関係 補助費	30,000	0	30,000	30,000
理容部運営 補助費	350,000	203,021	146,979	200,000
基盤教育事業 後援費	913,500	0	913,500	931,500
3 進路対策補助費	20,000	0	20,000	20,000
4 学生研究助成費	800,000	575,000	225,000	800,000
5 課外活動補助費	1,000,000	300,000	700,000	1,000,000
6 一般体育設備等 補助費	50,000	0	50,000	100,000
7 厚生施設等環境 整備補助費	500,000	63,025	436,975	500,000
8 研修行事等関係 補助費	150,000	0	150,000	150,000
9 学部渉外関係 補助費	500,000	8,770	491,230	500,000
10 大学行事補助費	2,000,000	505,630	1,494,370	2,000,000
11 運 営 費	3,815,000	2,468,127	1,346,873	4,315,000
広 報 費	1,500,000	1,508,826	△ 8,826	1,500,000
会 議 費	150,000	4,180	145,820	150,000
通 信 費	10,000	0	10,000	10,000
事 務 費	1,000,000	849,171	150,829	1,500,000
旅 費	50,000	0	50,000	50,000
地区別説明会費	1,000,000	5,400	994,600	1,000,000
学園都市推進 協議会費	100,000	100,550	△ 550	100,000
雑 費	5,000	0	5,000	5,000
12 積 立 金	3,000,000	3,000,000	0	2,000,000
13 施設協力金	8,392,500	7,575,000	817,500	10,000,000
14 予 備 費	3,427,853	0	3,427,853	5,870,869
合 計	28,720,753	16,923,242	11,797,511	32,219,269

山形大学工学部保護者懇談会 2021年度実施報告と2022年度開催予定

■今年度 実施報告

地域	開催日	開催会場	申込人数
関東・甲信越地区	9 / 4 (土)	オンライン開催	111名
北海道・東北地区	9 / 4 (土)	オンライン開催	126名
中部・西部地区	9 / 4 (土)	オンライン開催	75名

■来年度 開催予定

地域	開催予定日
対面開催(米沢)	10月10日(月)
オンライン開催	11月5日(土)

お知らせ

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、
こころの悩み

学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、休・退学、転学部・転学科、
科目等履修生、TA

学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

令和4年度工学部年間予定表

前期(令和4年4月1日～9月30日)

春季休業：2月22日～3月31日

授業期間：4月5日～7月29日

定期試験・まとめ：7月25日～7月27日

8月1、2、4、5日

補講期間：8月8、9、10、12日

夏季休業：8月13日(土)～9月30日(金)

9月学位記授与式：9月26日(月)

後期(令和4年10月1日～令和5年3月31日)

授業期間：10月3日～1月30日

10月入学式：10月3日

開学記念日：10月15日

冬季休業：12月24日～1月10日

定期試験・まとめ：1月31日～2月8日

補講期間：2月9日～2月17日

春季休業：2月20日～3月31日

学位記授与式：3月21日

【後援会通信】

工学部後援会では、ホームページに各種お知らせを掲載しております。

保護者懇談会の開催案内につきましても、開催日が近づきましたら、ホームページに掲載し、参加申込みを受け付けます。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。